

# 2022 年度妊娠そうっと SOS 山梨 事業実施結果報告書

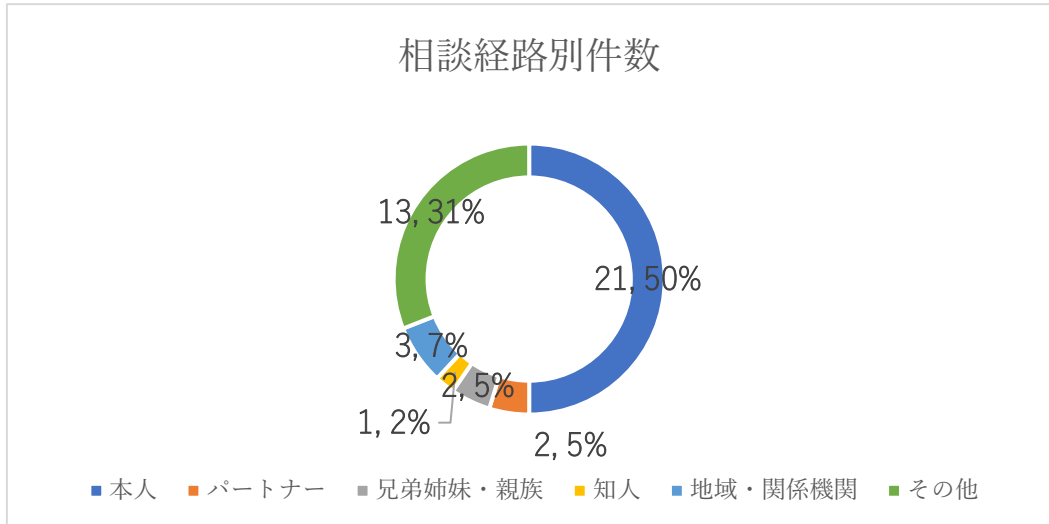
令和 5 年 3 月 31 日

所在地：甲斐市島上条 1440-1  
団体名：(福) 子育て・発達の里  
代表者：理事長 小田切則雄  
TEL：055-277-3093

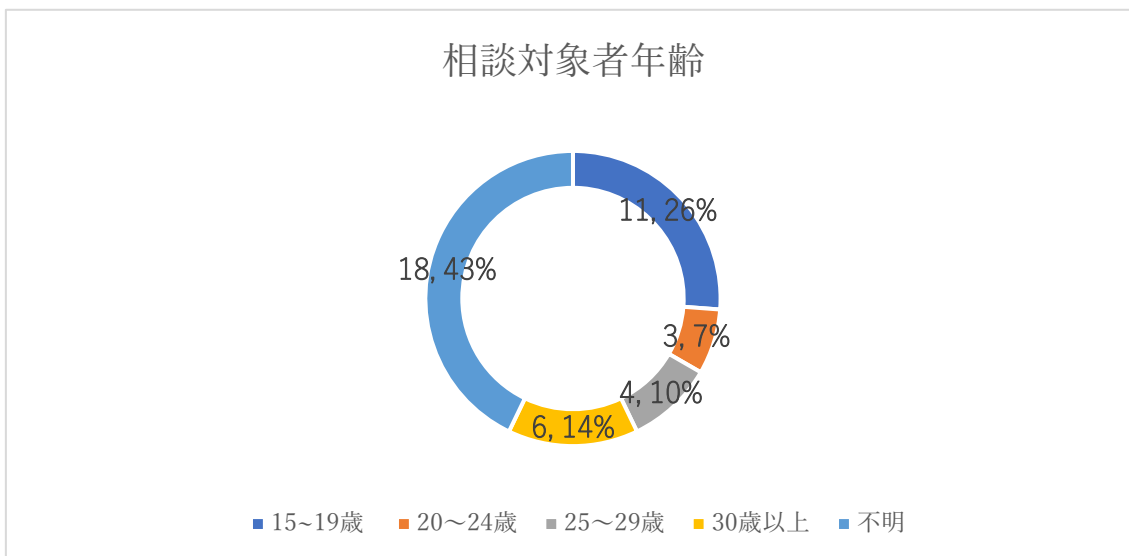
- 1 事業名 妊娠そうっと SOS 山梨 (日本財団助成事業)
- 2 実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日
- 3 実施場所 (福) 子育て・発達の里 乳児院ひまわり 社会的養育機関エール
- 4 実施結果の概要

## (1) 相談者の内容

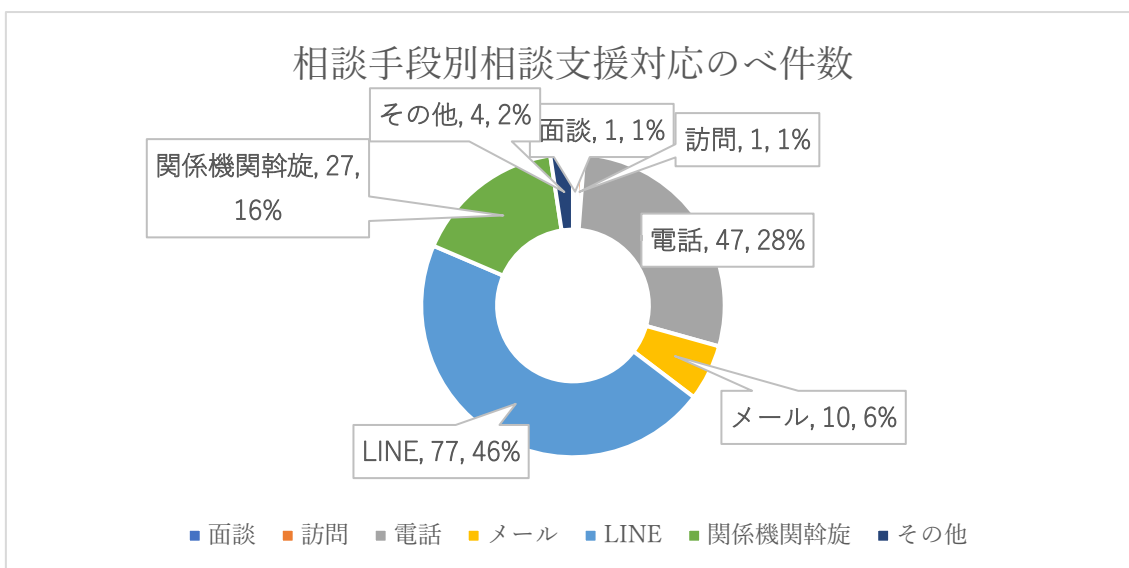
- ① 相談件数： 167 件 (LINE の連続したやり取りは 1 カウントとした)
- ② 相談実ケース数：42 ケース (内前年度継続ケース 1 ケース)
- ③ 男女別：男 5：女 28 (内前年度継続ケース 1 ケース)：不明 9
- ④ 相談経路別件数：



⑤ 相談対象者年齢：



⑥ 相談手段別相談支援対応のべ件数：



⑦ 終結ケース数：簡易な相談 10、他部署に係わる 8、出産 2、中絶 8、不明 13

⑧ 進行中： 1 (3/31 現在)

(2) 事業内容(1年を通して)

① 相談支援事業：専門相談・同行支援・事例検討会・研修会

② 地域連携事業：児童相談所・学校・市町村・地域包括支援センターなど

ケースに必要な関係機関と連絡を取り合い関係調整している。

また、他の自治体の SOS 事業所と連絡を取り情報交換を行った。

③ 普及啓発活動：リーフレット、チラシ、カードの作成・配布と設置依頼について

(ア) 県下 26 市町村に訪問し、事業の説明とチラシ設置依頼をした。(鳴沢村については調整を重ねたが訪問できなかった。)

(イ) 産婦人科医院・病院、図書館、大型商業施設、ドラッグストア、コンビニに訪問し、チラシ 2 種類 20 枚(A4 10 枚・見開き 10 枚)を設置を依頼した。ボランティアボード継続中 (130 か所)

(ウ) 中・高等学校・支援学校については、保健室にカードを置き、養護教諭が管理してくれることになった。カードとカード入れを 1 セットとして 150 セットを依頼した。(中・高・支援学校 150 校全て)

### (3) 広報活動

「妊娠そうっと SOS」事業がまだまだ周知されていないため、コンビニや大型商業施設は、「後援：山梨」が入っていることで信頼度が増し、取り扱いがスムーズとなった。

### (4) 地域連携事業

市町村への事業説明に回ったため、相談者へ紹介する際には名前を伝え次の支援につなぐことを意識した活動ができた。また、女性相談所や中学高等学校の保健室からの問い合わせや相談・紹介などが増え、連携した支援を行うことができた。

昨年度関わったケースへ、SOS としてベッド、ラック、バギーなどの物品の貸し出し支援を行っていた。返却時ケースを再開し、面談から安定した生活を送っていることを確認することができた。

### (5) 担当者会議

月 2 回開催 (第 2、4 月曜日 10:00~12:00)

参加者：SV(理事長)、統括責任者、看護師 (コーディネーター)、公認心理師、社会福祉士 2 名

内 容：定例会議、受理会議、ケース会議、研修会等の開催、職員間の報告・連絡等情報共有を行っている。

### (6) 緊急受理会議・緊急協議の開催

緊急性のある事例については、Zoom を使いタイムリーに会議を開き方針を決めることができた。個人情報の取り扱いに注意しながら、相談員間で情報共有することができた。

### (7) 情報交換会開催

①定例会議の中で研修会を 30 分~1 時間行った。(新聞や本で抄読会等)

②情報交換会 9 月 7 日(水)10:00~11:00

「長時間にわたる SNS (LINE) を通じての相談への対応について」

富山県「妊娠・出産悩みほっとライン」

田原百恵氏 (富山県子育て支援課)

小林氏 (ハッピーウーマンプロジェクト、認定心理士)

山田氏 ( 〃 助産師 )

### ③外部研修会参加

- ・5月25日 さめじまボンディングクリニック主催「令和3年度埼玉県特別養子縁組推進事業報告会・講演会「実父母と養父母支援を考える～内密出産は是か非か～」
- ・12月1日 ぴゅあ総合主催「困難な問題を抱える女性、DV 被害者支援―相談と支援の際の対応、留意点―」
- ・12月16日、17日 妊娠SOS群馬主催「予期しない妊娠への相談対応研修～現場で役立つ知識を学ぶ～パートⅠ：基礎編／パートⅡ：アドバンス編」
- ・1月28日 いのちの電話主催「自殺予防と電話相談」
- ・3月8日 エンパワメントアフロッキー主催「北京世界女性会議から28年目の総括 リプロダクティブヘルス&ライツを私たちの手に」
- ・3月12日 国際女性デー山梨集会実行委員会主催「暴力の根絶をめざして～DV・虐待加害者カウンセリングの現場から～」

## 5 振り返り、課題、今後の取り組み

### (1) 振り返り

妊娠そうっと SOS 山梨の事業を「必要としている人に伝える」ために、どのような方法が効果的か相談の中で経路を確認したところ、ネットでの検索が多く、次にチラシをコンビニでみたという方もおり、地道な広報活動によって少しずつ浸透していることを感じている。

また、市町村への事業説明の際、外国人労働者の特定妊婦や多産 DV 等のケースが聴かれ、実際にケースに連携して関わった際には、共有できる環境づくりの大切さを両者で確認できた。

### (2) 課題と今後の取り組み

#### ①効果的な広報活動を工夫し、SOSを必要とする人に届くようにする。

- ・コンビニ・ドラッグストア・大型商業施設・図書館等チラシ設置の継続依頼  
コンビニ再訪問(回っていない店の訪問・設置チラシの補充等計画的に行う)
  - ・SNS 環境を利用し、若者が相談しやすい環境を整え、若年者の相談を増やす。
- 3月17日に法人のホームページがアップされたため、そちらからの反応(メールフォーム)を見ていきたい。

#### ②相談者の相談内容を的確に把握して対応する。(受け手のスキルアップ)

- ・事例検証、ロールプレイ等を行い相談対応の技術の向上を図る

#### ③地域連携の強化をはかる。(市役所・学校・児相)

- ・地域に出向き、顔のつながった関係作りを計画的に行う。  
(各市町村子育て支援課・学校・児相・病院・産婦人科医院等)

④妊娠確定診断代について

・妊娠したことへ不安や恐怖を感じて受診ができず、かつ受診費用の支払いが難しいケースがあった。経済的な課題が併存するケースは少なくないため、早期の受診支援を目指し、初回受診への同行支援や初回診断費用の検討をしたい。

⑤緊急避妊薬を必要とする相談者が経済的困窮者であった場合の支援方法について

・SOSとしての経済的支援（貸付）等についてどのように対応していったらよいか今後検討していく。